

●NPOパワーアップ補助金事業成果報告会 資料

	<table border="1"> <tr> <td>団体名</td> <td>特定非営利活動法人 こだま</td> </tr> <tr> <td>代表者名</td> <td>近藤 けい子</td> </tr> <tr> <td>所在地</td> <td>千葉県長生郡一宮町一宮8432番地12</td> </tr> <tr> <td>電話番号</td> <td>0475-44-2665</td> </tr> </table>	団体名	特定非営利活動法人 こだま	代表者名	近藤 けい子	所在地	千葉県長生郡一宮町一宮8432番地12	電話番号	0475-44-2665
団体名	特定非営利活動法人 こだま								
代表者名	近藤 けい子								
所在地	千葉県長生郡一宮町一宮8432番地12								
電話番号	0475-44-2665								
1 事業名	地域の小さな拠点作り「応援ブック」作成・普及事業								
2 事業費	1,247,781円（このうち県の支出 500,000円）								
3 事業期間	平成19年7月20日～平成20年2月29日								
4 事業の目的	「こだま」という地域の拠点の開始は平成16年6月です。丸3年を経て様々な学びがありました。その学びを確認し、深め、広げる事業を今年は取り組みました。いくつかの深める作業を行いつつ、「応援ブック」にまとめ上げ、広げることで、県内各地で、無数の地域に密着した活動拠点が始まることを目的としました。								
5 事業概要	<p>1. 平成16年「共同生活舎こだま」という拠点が生まれました。丸3年の活動で学んだ事を話しあい、確認し、深め、まとめます。</p> <p>2. 「思い出博物館」は継続事業として、特に認知症介護・高齢者介護を底から支える内容として充実させます。</p> <p>3. 障害者の自立を支援する立場から、自主的なお泊り支援を今までも行ってきました。資源の開発という視点で、拠点を活用し応援のノウハウを深めます。</p> <p>4. 「応援ブック」としてまとめ、広げます。小規模なデイサービスが、地道に活動を継続していけるように、共に育ちあう立場で自分達のまなびを発信します。</p>								
6 事業経過	<p>1. 地域の小さな拠点作り「応援ブック」作成</p> <p>作成委員の募集（デイサービススタッフ・編集、製本について指導できる人など）</p> <p>作成委員会の開催 7月・8月・9月・10月・11月・12月・1月・2月 年8回開催 83名</p> <p>風の村にて研修及び作成検討会議 10月14日 6名</p> <p>昼食、おやつレシピ・アクティビティ・介護・記録・地域・環境などの分野に整理して学びの振り返りと文章化、写真整理など行い「応援ブック」を編集、印刷まで終了しました。製本は3月にずれ込み作業予定です。今後、随時、配布活動を行います。</p> <p>製本作業は作成委員会と拡大写本ボランティア「やまゆり」の協力にて実施予定</p>								

	<p>2. 「思い出博物館」の継続 担当者の募集（呼びかけ担当者・NPO こだま会員・有識者） 「思い出博物館」担当者会議の開催 10月・11月・12月・1月・年4回開催 36名 担当者研修会「昭和のくらし博物館」見学学習 7月 10名 「昭和の光と陰」睦沢町歴史民俗資料館見学 8月 2名 ワークショップ、思い出博物館、看板作り、展示ケース等整備 10月 15名 2月 5名 公開講座他 2月11日(08よっちゃばる・こだままつりにて) 公開講座「思い出を語ろう～古いものと介護～」 30名 「思い出博物館」の公開・縄ない機の体験コーナー 40名 朝日新聞に紹介掲載（2月19日）</p> <p>3. 障害者お泊り支援 お泊り体験と記録化・「応援ブック」への原稿まとめ 10月 11名（KOKOKARA会・障害者グループホーム支援ワーカーの協力・こだまスタッフ・たすけあい） （事業終了後の継続実施検討 3月15・16日合宿実施予定）</p>
<p>7 事業成果</p>	<p>■具体的な成果</p> <p>1. 丸3年余の活動で学んだ事を話しあい、確認し、深め、まとめた。 定期的な「こだま新聞」の発行。応援ブック原稿依頼。課題毎の文章化。日々の取組みの基礎となる記録を再チェック。資料として掲載。意識的に関わることの重要性を確認。「小さな事業所・応援ブック」という小冊子にまとめる。</p> <p>2. 「思い出博物館」は、認知症介護・高齢者介護を底から支え充実させるため、取り組む。一般公開したいと考え、その視点や方法を学ぶ為の研修会を企画、一緒に担う会員の幅をひろげる。かつての人々の生活を伝える品々が高齢者だけでなく、多くの年代層の興味もひきつけることがわかった。公開後、朝日新聞で取り上げられ、反響。今後も公開日を決め、整備拡充を図っていきたい。</p> <p>3. 障害者の自立を支援する立場から、自主的なお泊り支援を資源の開発という視点から、「こだま」を活用し応援のノウハウを深める。支援者を増やしていくためにはどうしたらよいか話し合う。 「応援ブック」にもまとめられ、引き続き、合宿や外出企画など取組みながら、方向性を見つける。早速、3月15日にも、こだまでの合宿を計画し、19年度のこだまの活動で関係ができた東金市にある福祉系大学へのボランティア募集も日程検討。</p>

<p>8 直面した課題と今後の展開</p>	<p>■直面した課題</p> <p>ボランティアの養成は大事ですが、人々の暮らしに余裕が無くなってくると、ここにもゆとりが無くなり、無償のボランティアを継続するのは限りがある。人のちからを借りるためには、少しでも、動くための費用を補助できると動きやすいと思う。福祉、介護の分野の働き手は、減少している。将来に希望が持てない、家族を養えるだけの給料がもらえないなどが理由。そんな中で、地域福祉の担い手作りも視野に入れ、小さな団体が頑張る事は、かなり無理がある。ガソリン代くらい捻出して払って集まってもらう。人件費、交通費が人が動くとかかるが、みんなが活動に参加しやすい環境をつくっていききたいと思う。</p> <p>■平成19年度以降の事業展開</p> <p>「小さな事業所・応援ブック」は、最後段階の製本が3月にずれ込んでしまった。製本を得意とするボランティア団体の協力を得て、作成委員会により仕上げ、小規模な事業所への頒布活動を展開していく。1冊500円 目標200冊。</p> <p>「思い出博物館」の定期的公開と引き続き調査と整理。5月NPO総会終了後、講演会開催「住み慣れた地域で暮らす～なじみの環境作り～」一般にも呼びかけ予定。「思い出博物館」も公開。拠点の活用。土日祝日の活用。みんなが集まれるしくみ作り。「楽しみのおすそわけ講座」の年間開催と同時にコミュニティ・ミニ喫茶を開き、担い手の育成。</p> <p>資金作りと活動費援助体制の確立。</p>
<p>9 補助金事業の感想等</p>	<p>スタート助成より応援していただき、パワーアップでは、いままでの振り返りの取り組みができた。お金がなくては動かないという人たちではないが、せめて動きやすい環境作りを自前でやっていかななくてはと、心をひきしめている。地域作りは一朝一夕にはいかず、積み重ねだと思う。</p> <p>ちばNPO月間2008がかぶり、広報などあわせて応援していただいたのもよかった。しかし、時期が事業終盤にあった為、最後が忙しくなってしまった。</p>